

# 平成24年度第1回生きがい・介護予防分科会 会議録

## 1 開催日時

平成24年11月21日(水) 18:30～19:30

## 2 開催場所

北九州市役所 3階 大集会室

## 3 出席者等

### (1) 構成員

山崎分科会長、橋元副分科会長、井手構成員、伊藤構成員、江口構成員、桑原構成員、座小田構成員、田中構成員、田村構成員、永田構成員、長野構成員、古市構成員、力久構成員

### (2) 事務局

健康推進課長、高齢者支援課長、健康づくり担当課長、計画調整担当課長 ほか

## 4 会議内容

### (1) 推進体制の充実等

### (2) 議事

生きがい・介護予防事業等の実施状況について

### (3) 報告事項

次期健康増進計画について

## 5 会議経過及び発言内容

### (1) 推進体制の充実等・・・資料1

意見等なし

### (2) 議事

生きがい・介護予防事業等の実施状況について・・・資料2

構成員：介護予防に関する普及・啓発事業のH26年の目標の「介護予防の意味や意義を理解している高齢者の割合40%」というのは、イベント等に参加した人の割合か？それともアンケート実施か？

健康推進課健康づくり係長：イベント等に参加した人の割合ではない。来年度実施予定の北九州市高齢者等実態調査の中の質問項目にあり、その調査で40%を目標としている。

構成員：介護ボランティア制度の実施は、今年度と来年度はどのようになっているのか？

介護保険課企画管理係長：介護ボランティア制度の実施は、第三次高齢者支援計画の中で、実施を検討するということで掲載している。平成24年度中に事業設計をすることとし、平成25年度は、ボランティアの方に実際に介護保険支援施設等に入ることを考えている。間に合えば、平成24年度中に、ボランティアに対する研修や施設への説明会の準備を進めてい

きたいと考えている。

## (2) 報告

### 次期健康増進計画について・・・資料3

構成員：「(仮称)北九州市健康づくり推進プラン」(素案)に対する意見募集について」の11頁の北九州市の様々な計画を繋げた図は、すばらしいと思うが、実施するのは、社会福祉協議会なのか？

健康推進課長：健康づくりの主役は、市民一人一人。それを支えるのは、社会福祉協議会のような地域で活動する団体やボランティア、産業界、医師会等保健医療分野の専門分野の団体などで、その総力を結集して、健康づくりを推進していくことを考えている。

構成員：行政だけでなく市民団体も縦割りだと感じている。繋げることは、大変な労力が必要で時間がかかるだろう。

健康推進課長：目標は、この町で住み続けたいと思いを抱けるようなまちづくりを進めることであり、行政もそれに向かって努力をしている。行政サービスはそれぞれの部署が所管のところの切り口からアプローチしている現実がある。11頁の図は、分野別計画の目標を着実に進めていくことで、結果的に各分野からみても、持続可能性のある町づくりに繋がっていくという同じ目標を向いている。各事業、各団体が効率的に動いているかは課題があることは認識している。北九州市健康づくり推進プランを稼働するにあたって、理解、周知に努めていき、市民、関係団体やNPO団体と一緒に方向性を見出していきたい。行政間の現在行っている連携については、例えば、建設局と保健福祉局との連携として公園に健康遊具の取り組みも進めている。思いは同じ方向に、事業レベルでの連携を一つ一つつなげて行くことは時間はかかると思うが進めていきたいと考えている。

構成員：6頁で、妊婦や親を対象とした健康教育等の実施とあるが、口腔についても早期の教育が必要であるので、産婦人科で口腔の話ができるように行政が歯科医師会と医師会を繋げるようなコーディネートをしてもらえないか？

健康づくり担当課長：よりよく連携していただけるように、医師会、歯科医師会に働きかけの調整をお願いしているところである。ただし、産婦人科に歯科の人材を投入できるかは、医療管理者の問題があるので、具体的なアプローチについては今後医師会、歯科医師会と相談して進めていきたい。

構成員：7頁の高齢者の生きがい活動支援事業で、「高齢者いきがい活動ステーション設置、運営」はどのような計画か。

高齢者支援課いきがい係長：例えば施設のボランティア活動、講座やイベント情報の紹介、老人クラブの活動の紹介等の準備を進めているところである。

構成員：5頁の歯周病等への歯科疾患予防対策の推進で、本市の受診率はとても低い状態。通院困難な人への訪問診療がもし可能であれば、考えてもらえないか。

健康づくり担当課長：歯周病検診は、歯ぐきの状態を詳しく精査するため、診療所中の実施を想定している。通院が困難な方へは、訪問歯科診療という制度があり、周知面の努力をしていきたい。通院が困難な要介護者等への方策については今後検討したい。

構成員：1頁に北九州市の出生数が8,302人とあるが、少子化対策も含めてやった方がよいのではないだろうか。それから、8頁にあるように心の問題がかなり入っているのは、精神疾患が四大疾病に盛り込まれたことを受けたものか。

健康推進課長：四大疾病に精神疾患が盛り込まれたことも、背景の一つにはあるが、ここでこの健康づくりを重要視したのは、北九州市は死因で自殺が多く、特に20代、30代の若い世代の死因は自殺が大きく占める現状から。健康寿命の延伸、心豊かな活力ある地域社会を実現するためにどう取り組むかと考えた場合、この健康づくりは大きな課題である。ストレス社会、学校のいじめ問題、高齢者の孤独、人間関係の希薄で社会の関係性の中で自殺が増えている。自殺を予防という視点でこの健康づくりにアプローチすることとしている。

構成員：企業との連携が必要になってくるだろう。

構成員：地域おこしの活動拠点としてはボランティアセンターかまたは市民センターを考えているのか。

高齢者支援課いきがい係長：高齢者いきがいステーションの例では、情報収集・提供は、市・区ボランティアセンターで行う。また、各団体の活動拠点は市民センター、年長者大学校や生涯学習センターなどが考えられる。

構成員：活動するには拠点が大事になってくる。市民センターとボランティアセンターの連携は重要である。市民センターにはまちづくり協議会、食生活改善推進員協議会、医師会など、関わっている実績があるので、市民センターとのつながりというのは大変大事だと考える。

構成員：12頁「各健康分野における指標」 栄養・食生活に具体的数値目標がなく、「減少傾向」となっているのはなぜか？

健康推進課長：北九州市の健康づくりプランの指標の多くは、国の健康日本21と同じ指標を準用しているが、栄養・食生活については、北九州市は国の10年後の目標数値を達成しているが、その中で、さらに前向きに取り組もうということで「減少傾向」とした。まだ素案の段階であるので、これについて北九州市の具体的な数値目標を定めるかどうかは検討したいと考えている。